

中学生・作文 愛媛県砂防協会会長賞

「土砂災害に遭う前に私たちにできること」

宇和島市立城北中学校 2年 川井 菜緒^{かわい なお}

私が小学校5年生の夏。広島の人々をはじめ日本に暮らす人々が、自然災害の恐怖を心の底から感じる事が起こりました。

8月20日、広島市安佐南区と安佐北区を中心とした土砂災害です。テレビで見た様子は、今までに見たことのない光景でした。この災害の気象要因は、秋雨前線に向かっていった暖湿流が集中豪雨を生んだことと、バックビルディング型線状降水帯の停滞だったと、後でニュースで知りました。気象記録の最多雨量は、1時間で123ミリと聞きました。人的被害は、死者は77人、負傷者は44人だったそうです。また、建物の被害は、全壊が113棟、半壊が122棟、本当に大きな被害でした。

約20日間に渡って救助作業が行われ、私の父は、愛媛県緊急消防援助隊員として、広島に入りました。救助活動から帰ってきた時、広島のことを聞いてみました。すると、父は、「テレビで見たとおりにやっただ。マンションの1階は土砂に埋まるとし、車が流されて、重なり合っただ。土砂に流されて跡形もなくなった家の横に、何も起こらなかったかのように、隣の家が残っただ。」と話してくれました。様変わりした広島の様子を聞きながら、土砂災害を防ぐためにはどうすればいいか質問してみました。すると、父は、「昔と違って、最近の雨の降り方は、半端やないけんのう。土砂災害の防止をするためには、工事をするしかないんやないかな。あとは、『もう、このままでは危ない。』と思ったら、すぐに避難することぞ。」と答えてくれました。

なぜ、このような土砂災害は起きてしまうのでしょうか。それらの理由は、大きく分けて、三つあると言われています。

その一つは、日本の地形にあります。日本は山が多く、その山は崩れやすい土できています。次に、気象状況です。日本は、季節毎に梅雨や台風など、多くの雨が降る季節があります。世界と比較して、平均2.5倍程の雨量があるそうです。そして、流れが急で曲がりくねった川が多いということも要因と言われています。

しかし、土砂災害は「いつ」「どんな時」に発生するか、はっきりは分かりません。避難をするタイミングが遅れてしまうかもしれません。土砂災害発生のサインは「1時間に20ミリ以上の雨が降る」とか「降り始めて100ミリ以上の雨量になっている」などです。特に、短時間に集中して大量の雨が降った時は、かなりのリスクを伴います。降り続いて、地中にしみ込んだ水の量が多いほど、発生数や規模も増すと言われています。雨がやんだ後、2～3時間後に発生することもあるので、油断はできません。

土砂災害は、自然災害です。ですから、簡単に防ぐことはできません。防ぐというよりも、「どうやって被害を軽減するか」ということが大事になります。私たちができることは、それぞれの自治体が発表する避難準備情報や避難勧告、避難指示や土砂災害警戒情報等に気を付けることです。そして、早めの避難を心掛けることだと思います。「まだ大丈夫」と漠然とした安心感に頼らず、すぐに行動を起こすことだと思います。

また、いざという時のために、土砂災害が起こる可能性が高いと思われる急傾斜地などを、調べておくことも大切だと思います。それと同時に、自分の近くの避難場所を確認し、早めに避難するというのも大切です。

近年、世界中で地球温暖化に伴う気象異常を耳にします。日本では、今までにない大きさや威力の台風に見舞われています。私が住んでいる町も、住宅地の近くに山々が迫っており、もし、一度想像を絶するような大雨が降れば、広島で起きたような土砂災害が起きることは、予想されています。自然災害をなくすことは難しいけれど、その予防と事前の準備をすることはできます。子どもからお年寄りまで、一人一人が災害の恐ろしさを自覚し、早めに避難する行動力を身につけることが大切だと思います。そうすることが、一人でも犠牲者を出さず、安全で安心できる暮らしにつながると思います。まずは、私から努力していきたいと思っています。